



高齢者のてんかんの増加



てんかんは慢性の脳疾患で、脳の神経細胞に突然発症する激しい電気的な興奮により、発作を繰り返す病気です。有病率 0.5～1%の病気で、国内ではおよそ 100 万人のてんかん患者がいるものと推定されています。子供から大人まで発症することがありますが、発病する年齢は 3 歳以下が最も多く、多くのてんかんは 18 歳以前に発症します。

しかし、てんかん発作が生じうる状態には、様々な疾患が存在し、加齢とともに感染症、外傷、脳腫瘍、脳血管障害などが増加し、てんかんの発症が増加する事が懸念されています。わが国は超高齢化社会となってきましたので、高齢者のてんかんの有病率が 1.2～1.5%に増加することが示されており、今後さらに高齢者のてんかん患者が増加するものと考えられています。

てんかんの診断には詳細な病歴聴取が最も重要です。意識を失ってしまったり、全身の痙攣が起きたり、急に動きが止まったりする症状が繰り返し起こる場合は、てんかんを疑うことが重要です。

また、発作時には患者本人は意識がないため、家族など、発作を目撃している人から発作症状を確認することが非常に重要になります。

発作が少ない場合でも、再発リスクが高く、継続的に治療が必要になります。

近年、複数の新薬が導入され、薬剤選択の幅が広がっています。適切な診断がつけば治療により 70～80%の患者で症状が消失します。

てんかんの発病初期に脳波の検査や、MRI検査などの画像診断を行い、治療方針を決め、医師・患者と良好な関係を保ち、患者の生活を支えることが重要になります。



医師 野村 純治



総合健診センター ヘルチェック

横浜東口センター 横浜西口センター レディース横浜
ファーストプレイ横浜 新宿西口センター レディース新宿
池袋センター

予約センター
東京 03 (3345) 7766
横浜 045 (453) 1150

HEALTH CHECK
HEALTH CARE CENTER
ヘルチェック
www.health-check.jp
顧客健康支援室